

ユニセフ・WCRPシンポ

宗教者の子どもも保護を討論



紛争下での様々な取り組みが報告されたシンポ

国際連合児童基金(ユニセフ)と世界宗教者平和会議(WCRP)主催のシンポジウム「紛争下・後における子どもの保護―宗教者の役割」が14日、東京・高輪のユニセフハウスで行われた。ユニセフとWCRPの共同プロジェクトとして昨年からはじまった、紛争後の子ども保護の事業などが報告され、同時に宗教者の果たす役割について論じられた。

ミンダナオで共同事業開始

パネリストは、ステイブ・ハンマー氏(ユニセフ本部プログラム事業都市社会連帯担当専門官)、杉野恭一氏(WCRP国際事務局事務次長)、パブリック・ベイバド氏(フィリピン・セントトーマス大学宗教研究所教授)、NPO法人JENの木山啓子事務局の4人。

ハンマー氏は地域の宗教共同体との協同が重要であるとし、これまで行ってきたエルサルバドルでのキリスト教会での子ども保護、アフガニスタンでのイスラム教指導者との女性教育の推進、カ

ンボジアでの仏教僧とのHIVエイズへの取り組みなどを紹介。杉野氏は、国連機関や国際政治の場で、宗教の持つ精神的・道徳的な力や国際的ネットワークが見直され「諸宗教対話や協力の問題が議論されるようになった」と指摘。シエラレオネやイラク、ウガンダでの諸宗教協力の事例からは、対立する民族、宗教間で意図的に人道支援を行うことで、和解と信頼を醸成するといった新たな諸宗教協力のあり方を示した。

昨年からはフィリピン・ミンダナオでユニセフとWCRPの共同事業に取り組むベイバド氏は、子ども保護における高い専門性、宗教指導者の地域における影響力といった相互の強みを活かすことで、「より改正された子ども保護の体制」を確立させると展望。また、和

平交渉にも「子どもの問題をとりあげる特別委員会の設置」を働きかけていると報告した。現在は各地域の宗教的伝統文化とその影響力、子どもが直面する問題などを分析し、その結果を基に具体的な活動内容を決定していくとした。紛争下での救援活動や開発援助を行ってきた木山氏は「自立のためには

平交渉にも「子どもの問題をとりあげる特別委員会の設置」を働きかけていると報告した。現在は各地域の宗教的伝統文化とその影響力、子どもが直面する問題などを分析し、その結果を基に具体的な活動内容を決定していくとした。紛争下での救援活動や開発援助を行ってきた木山氏は「自立のためには

知恩院

北川内局が発足

4人増え15人体制

14日就任した浄土宗総本山知恩院の北川一有執事長は内局を構成する局部室長14人を指名、25日午後には京都市東山区の同院で辞令伝達式が執り行われ、新内局が発足した。兼務を一部解消して内局員は前内局より4人増加。8人が留任(一部担当部署は変更)、6人が新・再入局となった。

北川内局の顔ぶれは次の通り(敬称略、括弧内は年齢、所属教区・寺伝寺、新)。

- ◎執事長・おてつき運 勳本部長 北川一有 (85、東京・長寿院)
- ◎大連忌事務局局長 友田達祐 (65、静岡・法伝寺、新)
- ◎守廟長 菅原達孝 (78、京都浄福寺、新)
- ◎法務部長 附忠信

- ◎執事長 菅原達孝 (78、京都浄福寺、新)
- ◎法務部長 附忠信

- (62、京都・大光寺)
- ◎布教教務部長 吉水裕光 (65、東京光照院)
- ◎総務部長 貴田善澄 (63、兵庫西方寺、再)
- ◎財務部長 倉井正則 (66、富山法伝寺、新)
- ◎おてつき運動推進部長 嶋飼義昭 (62、静岡・法岸寺)
- ◎内侍部長 西浦道哉 (69、大阪・鸕鷀寺)
- ◎執事長 公室兼人権啓発室長 鶴野重雄 (59、滋賀浄栄寺、新)
- ◎統括企画室長 安藤

信文光

苦しみ



任、左手紙を、右に『手紙』を、左に『手紙』を、2時間にわたり、監督の生野ジオのDJで少

は、当初の方針通り、来で、11年度予算案が成立一51年目にあたる2012・各施策の点検作業に着や会議を縮小・中止を